

| | | | |
|----------------|--|----------|----------|
| 開催日時 | 令和6年7月4日(木) 15時30分～16時30分 | 開催 会場 | 市役所5階議会棟 |
| 参加者数 | ①グループ 農業委員4人、推進委員2人、議員2人 (計8人) ②グループ 農業委員4人、推進委員3人、議員2人 (計9人) ③グループ 農業委員4人、推進委員3人、議員2人 (計9人) | | |
| 実施内容 | テーマ「各地区委員が抱えている課題について」 | | |
| 質疑および 主な意見等 | <p>○懇談の目的：可児市の農業の実態と今後の課題についての状況把握</p> <p>○資料：特になし</p> <p>○次第：参加者全員の自己紹介の後、3グループでテーマについて意見交換</p> <p>【主な意見】(耕作放棄地の対応、農地継承のカギ、農業機械の引継ぎ等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月の議員と語る会(鳥獣被害)の時に猟友会の予算が足りない話があったが鳥獣被害を全て猟友会に丸投げするのはいかなものか。久々利、春里、帷子の問題ではなく、土田でも起きている問題だ。⇒猟友会への予算は令和6年度当初予算で少し上がった。 ・田畑があっても息子達はやらない状況だ。現在耕作している人もすでに80歳以上と高齢化している。可児市の農業を良くしていこうという話をする前に田畑がなくなってしまう。 ・農業委員自体も担う人がいなくなった。可児市の農業は個人頼みではもう限界ではないか。早く手を打たないと可児市の農地がなくなってしまう。自営している個人を集めて集団化、大型化していかないと難しいのでは。 ・里芋部会ももう9人ぐらいになってしまった。可児の特産品をブランド化する必要がある。 ・保育園、小学校でもボランティアとしての取り組みがあるが、それはあくまでボランティアであり、何か新しい観点で切り込んでいくことが必要。 ・農地の集約化は、JAのドリームほか4団体ぐらいあるが、非効率でなかなか集約が進んでいない。集約面積の基準が全国的には5haとか言われているようだが、可児市の地形ではそのような集約化はなかなか難しい。 ・大森地区のイチゴやっている若い人がいるが、経営母体のない人は借金してやるしかない。参入できる環境を整えていく必要がある。 ・農業は水が必要、可児市で1年中水が出る農地はない。水の確保から始める。できない地区ということも市は認識してほしい。 ・国、県、市が農業をどう考えているのか、農業で生計を立てられるようにならない限り、農業従事者の高齢化、後継者不足問題は解決しない。補助金の活用を本気で考えてもらいたい。 ・すでに大型農機具を手放してしまっている現状で、耕作を続けていくことは困難であるとの話を聞く。相談されても的確なアドバイスができない。さらに、農業委員や推進委員の職務の範囲を超える相談についても対処に困る。 ・他地域では、農地所有者に今後どのように活用したいのかアンケートを取りまとめ地域で一括して中間業者に耕作を依頼しているところもある。市主導でアンケートを行いデータベース化すれば、中間事業者に情報提供しやすくなるの | | |

ではないか。

- ・私有地の耕作放棄地には入れない。草が伸びていてもゴミが捨ててあってもどうしようもない現状である。
- ・耕作放棄地の所有者に代わり農業委員自ら草刈りをしている。
- ・議会でもっと農業について取り上げてもらい、可児市の農業をどうすべきか示して欲しい。
- ・米の販売価格が安いので作れば作るほど赤字になり、商売としては成り立たないのが可児市の農家の現状である。
- ・コンバインなどの農業機械は高額な上に毎年の維持管理費ものしかかってくる。年金や苗づくりの収入を農業機械代に充てて農地を維持しているのが現状である。
- ・機械の貸し出し制度については、昔は近隣の農家で共同購入して使っていたが、使用する時期が重なっているため複数人が使用すると機械が壊れやすい。農機具メーカーが安価に貸出すような制度にしないと維持していくのは難しいのではないかと。
- ・11月から7月初旬にかけてイノシシの被害が多いので、猟期以外も駆除が必要ではないか。
- ・今地域では、犬山市や多治見市北小木など近隣自治体からイノシシが侵入して来るので、ボランティアの様な体制で猟友会の方に協力して駆除しながら田畑を守っている。
- ・農業委員に就任して約1年経つが、農業委員会は農地転用のための委員会会議に偏りすぎているので違和感を覚えた。

【まとめ】

農業委員の方、推進委員の方から可児市の農業の現状と現在抱えておられる課題について貴重な意見・提案をお聴きすることができた。農家の高齢化により耕作放棄地が増えており、その管理にご苦労されていること、農業で生計を立てられないようにならない限り、農業従事者の高齢化、後継者不足問題は解決しないことなど、切実な課題を共有することが出来た。

また、若い人に就農してもらえるような補助制度の創設、補助金に頼らなくても営農できる環境整備、農産物のブランディング戦略など、今後の可児市の農業振興策についても意見・提案をいただいた。

市は、平成29年8月に「農地活用ビジョン」を策定しているが、これまで改定しておらず、可児市の実態に即した新たな農地活用ビジョンを示していく必要がある。今回の意見交換で聴取した意見を議会として共有し、市に検討を促すとともに、委員会としては農業振興策や耕作放棄地の利活用などについて調査研究を続けたい。

令和6年7月22日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

総務企画委員会 委員長 大平 伸二

議会報告会実施報告書

教育福祉委員会

| | | | |
|------------|---|------|--------|
| 開催日時 | 令和6年7月5日（金） 午前9時00分～12時 | 開催会場 | 下切下公民館 |
| 参加者数 | サロン参加者 10人（その他 主催側2人、地域包括1人、社協1人） 議員 3人（渡辺副委員長、松尾委員、田口委員） | | |
| 実施内容 | 議会報告会 議員と語ろう！ 地域交通をメインテーマとしつつ、様々なご意見を聞く。 | | |
| 質疑および主な意見等 | <p>【実施概要】</p> <p>毎月第一金曜に行われている高齢者の集い「下切サロンひだまり」の中で時間を作っていただき、日常の移動手段について下切下公民館周辺にお住まいの方がどのようにしておられるか、さつきバスなどの利用はあるか、移動について実際の困り事は何であるか、どのような要望があるか、また、テーマ以外にもこの地域に関するご意見を伺った。終始、なごやかな雰囲気での語る場となった。</p> <p>【主な意見】</p> <p>○日常出かける事は多々ある。アーラに向かう、病院に行く、お寺様への所用などそのたびに息子に頼んで連れて行ってもらう。しかし、仕事を休ませたりすることがあり、申し訳ないと思う。また、このままでは、先が不安である。</p> <p>○定期的に土岐市の病院に通院している。そのため、電車やタクシーを乗り継いで病院まで行くのだが、直接タクシーで行くなどすれば、片道5000円以上の負担となる。</p> <p>○下切内でも、この地区はバス停まで距離があり、また、JR下切駅へも遠いので、さつきバスや電話で予約バスの利用は困難である。</p> <p>○車の免許返納はしていないが、接触事故に合いそうになり、怖くて自信がなくなっている。可児市は、車の安全装置4万円の補助金はないか。</p> <p>○免許返納後には、バスがないならバスチケットではなく、地域ごとでタクシーチケットを配布して欲しい。</p> <p>○市政に対して言うことではないが、住所表記について、かねてより思っていることがある。丁目番地が使われているが、番地では、どこに住んでいるのか分からないので、もともとあった地名に戻してほしいと願う。</p> <p>○自治会加入率が低下している。</p> | | |

○地域の要望が自治会判断で却下されて市に要望が届かない。または、順位付けをせず、一人の住民の声を届けてくれる風通しのいい地域にしてほしい。

これらのご意見に対して、議員側からの意見

○交通網の利便性が充分でないことには共感している。所管する建設市民委員会が視察に行くなど、協議されている。教育福祉委員会としても、福祉の観点から、あるいは通学の問題として、検討していく。可児市としても、アンケートに対する市民からの意見をもとに、審議され、鉄道を含めた公共交通網計画の改正がされる時に来ている。

○住所表記については、市内でも生活上、旧町名を使っているところが見受けられる。また他県において、歴史ある漢字表記の町名を使って保存する運動があった。なじみのある町名を大切にする思いには、共感するところがある。

【まとめ】

地域の皆さんの集いの場に、委員会が参加させていただいたことに心から感謝申し上げます。談笑とともに、貴重なご意見が聞けて、意義深い会となった。

各地域において、サロンが、住民にとってご近所さんとの会話を楽しみ、情報を共有しあえる大切な居場所になっている。その様子が下切サロンにおいてもうかがうことができた。サロンが、様々な不安を持つ人も含めコミュニケーションの場になっており、サロンを通じて社会福祉協議会や地域包括支援センターなどに相談されながら、安心して暮らせるまちづくりをされている。

メインテーマであった地域交通については、免許返納後の日常生活への不安の声を聞くことができた。一部分を除き、下切にはバスの運行がなく、地区センター、買い物、アーラ、病院など、日常の行きたい場所へは、容易には行かれない。デマンドタクシーは、参加者にとってはなじみがなく、未だ利用していない。そのため、平日の病院等への移動手段は、高額にはなるがタクシーを利用せざるを得ない実態があることが分かった。

お聞きしたご意見をもとに、執行部に対して提言や提案ができるよう今後も調査・研究していきたい。

令和6年8月16日

可児市議会議長 澤野 伸 様

可児市議会報告会開催要領の規定により報告書を提出します。

可児市教育福祉委員長 川合 敏己